

## アルナシームの引退に寄せて⑦

前走の敗戦を受け、次走は京都・芝 1800mのリステッド競走、カシオペアステークスに向かうことが決定しました。当日は、天皇賞・秋の裏開催のため、騎乗騎手の確保に苦労するかに思われましたが、鮫島克駿騎手が騎乗できることになり、安堵したことを思い出します。多士済々な出走メンバー構成となりましたが、申し分ない立ち回りで好位から抜け出す優等生なレースぶりで快勝。オープンでも勝てたことが自信となり、今後に向けてさらに期待が高まりました。



できれば 1800mの重賞に使いたところでしたが、適度な間隔で使えるタイミングでは組まれていないため、年明けの京都・金杯が目標として設定されます。馬場状態があまり良くなかったことに加え、インが有利なコンディション。外枠のため、外を回らされることにもなってしまい、11着に敗れました。続く、小倉大賞典では1番人気の支持を集めます。長距離輸送を挟んでもコンディションは良いと感じていましたし、理想的な競馬をしてもらいましたが、あと一歩及ばず4着という結果に。良い状態でスムーズなレースで負けるというのは、ある意味一番落ち込むパターンでもあります。最適と思える小回りコースの 1800m戦だったこともあり、落胆が大きかったですね。頼まれていた福岡名物の「めんべい」を買い忘れるぐらいに…



そして、次走は芝 1600m戦の中山・ダービー卿チャレンジトロフィーへ向かいます。金杯で敗れたものの、マイル戦も守備範囲と思われましたが、前半は追走に余裕がなく後方に置かれる厳しい展開に。合うとは言えない稍重の馬場のなか、最後は上がり 33 秒 8 の脚を使って追い上げます。この内容に、横山和生騎手は「1600mは忙しいですし、馬場も良くなかったですからね。でも、最後は凄い脚でしたし、距離を延ばせば重賞を勝て

ると思います。また乗せてください」と、前向きなコメントをいただきました。次走も乗ってもらいたかったのですが、残念ながら適鞍で騎乗可能な番組がありません。そこで、白羽の矢が立ったのが横山典弘騎手です。名前は出せませんが、アルナシームともかかわりのあった某関係者に、自分なら誰を乗せるか？の問いに、「ユタカさんかノリさん」と答えてもらっていました。その横山典弘騎手と臨んだ芝 1800mの都大路ステークス。敗れましたが、初騎乗ながら、完璧なエスコートで2着に入ります。



3歳秋の秋色ステークスで敗れてから、左回りに出走することはなかったのですが、「左回りが合わないとは思わない」（横山典弘騎手）という感触もあり、徐々に左回りのレース、東京・エプソムカップに出走することが決定しました。また、「なんか抑えつけられているような感じがする。もっとのびのびと走らせるべきではないか」と、名手からの提案により、トレードマークにもなっていたクロス鼻革（鼻筋で革が8の字に交差する馬具で、主にハミ受けの矯正やハミを安定させるために使用する）を外すことが決定。レースでは、折り合い面の不安見せず、いたってスムーズなレース運びでした。「左回りは問題なかったし、クロス鼻革がなくても制御面も問題なかった。あとワンパンチ欲しかったが重賞を勝てる馬」と、好評価をいただきました。



重賞制覇に向けて機運が高まるなか、目標を当年は小倉で開催される中京記念に向かうことが決定。横山典弘騎手が追い切りに騎乗するなど、橋口調教師、五十嵐助手、厩舎スタッフの皆様の力が一つになっていくのを実感していました。

次回に続く